

ハウスメロンにおけるエルゴール乳剤の散布濃度



表1 冬作および春作での果重と外観・内容品質

作型	試験区 (散布量 ml/株)	果重 (g/果)	ネット指数 総合 ²⁾ (1~5)	果肉糖度 ^{Y)} (Brix) 平均
冬作 ^{X)}	1,000倍区(50)	1,427	2.3	13.3
	2,000倍区(100)	1,523	2.4	12.4
	3,000倍区(150)	1,490	2.3	13.1
	対照区(水100)	1,234	2.3	14.2
春作 ^{W)}	1,000倍区(50)	1,517	2.3	14.0
	2,000倍区(100)	1,522	2.2	14.3
	3,000倍区(150)	1,516	2.3	14.0
	対照区(水100)	1,419	2.3	13.9

2) 総合は1(劣)~5(優)

Y) 果肉糖度は、外壁部・中壁部・内壁部の平均。

X) 果重およびネット指数は2005年1月6日に調査。

果肉糖度は2005年1月13日に調査。

W) 果重およびネット指数は2005年5月23日に調査。

果肉糖度は2005年5月30日に調査。

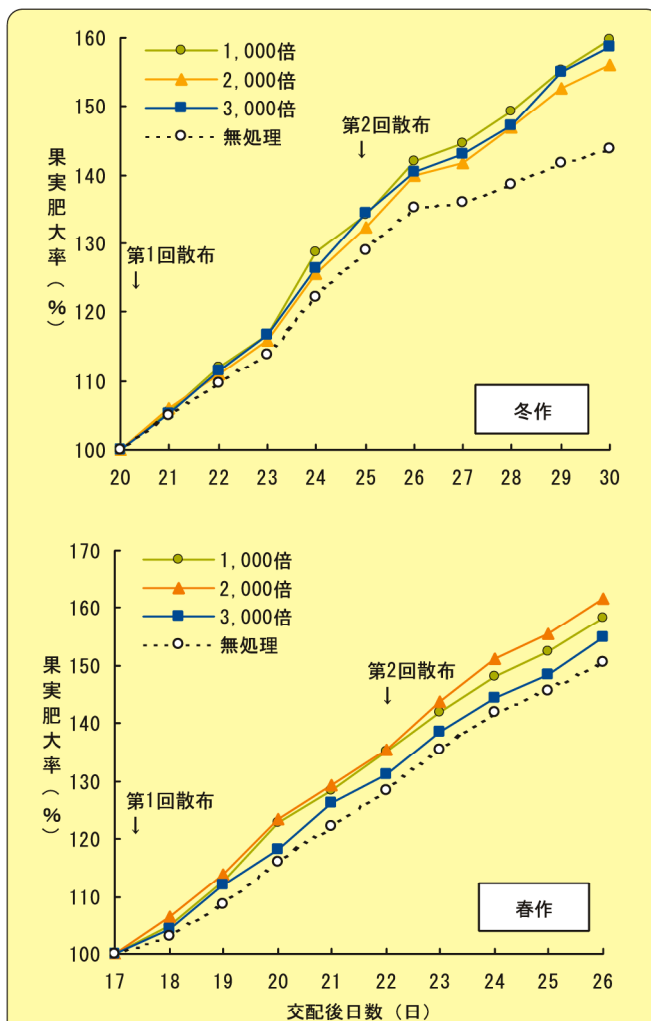


図1 冬作および春作における果実肥大率の推移

注) 果実肥大率：処理前の果重を100とし、

推定果重 $=4/3 \times 3.14 \times ((\text{縦径} + \text{横径})/4)^3$ から算出

ハウスメロンでは、果実肥大とネット形成を促進させる目的で、植物成長調整剤「エルゴール乳剤」が使用されています。しかし、効果が不安定であることから、散布濃度について検討しました。

冬作（10月定植、品種；‘アールス雅秋冬系’）および春作（2月定植、品種；‘アールス雅春秋系’）において、1,000倍、2,000倍および3,000倍濃度液を、果実の縦ネット始期（冬作：交配20日後、春作：交配17日後）とその5日後の計2回散布し、肥大効果と品質への影響を調べました。

その結果、いずれの濃度でも肥大効果が

認められ（図1）、果肉糖度は対照区に比べ、冬作ではやや劣りますが、春作ではほぼ同等であることが分かりました（表1）。しかし、1,000倍ではいずれの作型でも草勢への影響が認められ、3,000倍では散布量が2,000倍の1.5倍（300L/10a）と多く、春作での肥大効果も小さいことから、いずれの作型でも2,000倍濃度での散布が適当であると考えられます。

現在、2,000倍濃度でのより効果的な散布時期や回数について調査を行っています。

（施設野菜担当 橋田祐二 088-863-4918）